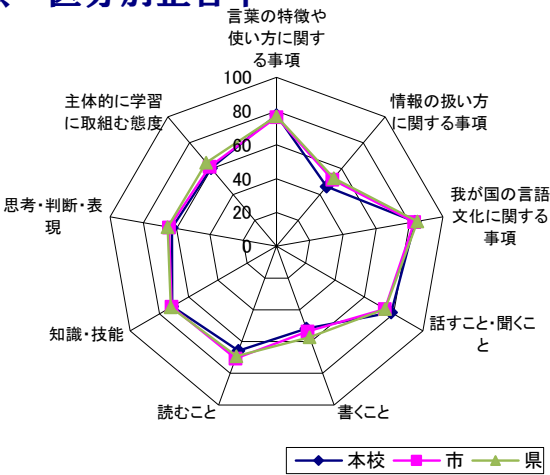


宇都宮市立清原南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.7	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	46.1	51.5	52.7
	我が国の言語文化にに関する事項	83.3	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	78.3	74.1	74.2
	書くこと	51.9	53.7	57.2
	読むこと	65.8	70.7	69.2
観点	知識・技能	71.3	71.6	72.3
	思考・判断・表現	62.8	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	60.3	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

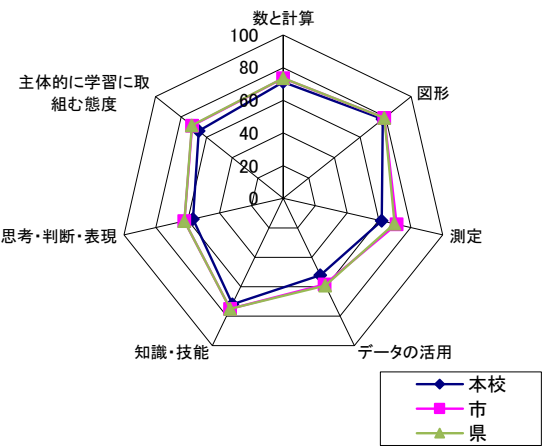
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率が77.7%と、県の平均正答率とほぼ同等である。漢字の書き取りは、県の平均正答率を上回っており、漢字を正しく書き取る力が身に付いている。	・基礎基本の定着のため、確認テストなどの実施やAIドリルを活用し、繰り返し練習することで習熟を図る。
情報の扱い方にに関する事項	●領域全体の平均正答率が46.1%と、県の平均正答率より6.6ポイント下回っており、情報と情報の関係について理解し、考えやそれを支える理由との関係を明確にして書くことに課題がある。	・情報センターとしての学校図書館やICTを活用し、多くの情報に触れさせ、その中から必要な情報を選択する機会を多く設ける。
我が国の言語文化にに関する事項	●平均正答率が83.3%と、県の平均正答率より1.4ポイント下回っている。主語と述語の関係を捉える問題やローマ字の表記について課題がある。	・国語だけでなく他教科においても国語辞典を活用し、使い方に慣れさせる。 ・短文づくりや、文章の読解において主語述語を意識するように指導する。 ・朝の学習や日常の場でローマ字表記を取り上げ、定着を図る。
話すこと・聞くこと	○平均正答率が78.3%と、県の平均正答率より4.1ポイント上回っている。特に、話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、平均正答率が81.7%と上回っている。	・日常生活においても話を聞くときはメモを取るなど、重要な語句は何かを判断しながら聞いたり、質問したりしながら話の中心を捉える活動を意図的に設けていく。
書くこと	○自分の考えを明確にして文章を書く力は、78.3%と県の平均正答率とほぼ同等である。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことについて課題があり、県の平均正答率より15.3ポイント下回った。	・短文づくりや作文など、文を書く練習を意図的に取り入れ、文を書くことに慣れさせるとともに基礎的な文の記述を身に付けさせる。 ・教科書の説明文を視写させるなど、段落のまとまりを意識して文章を書くことができるように指導していく。
読むこと	○叙述をもとに場面の様子を捉える問題の平均正答率は、76.7%と県の平均正答率と同等であった。 ●領域全体の平均正答率が65.8%と、県の平均正答率より3.4ポイント下回っている。叙述をもとに段落の内容を捉えることや、情報と情報との関係について理解し中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。	・段落ごとの話の中心を捉え、要点をまとめられるように指導していく。 ・物語教材では、それぞれの読み方を共有するなどの学び合いの場を設けることで、多面的な読み取りが深まるようにする。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.2	73.5	73.6
	図形	77.8	79.0	79.1
	測定	61.7	71.1	69.8
	データの活用	52.2	58.4	59.2
観点	知識・技能	71.9	75.0	75.0
	思考・判断・表現	56.7	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	66.2	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

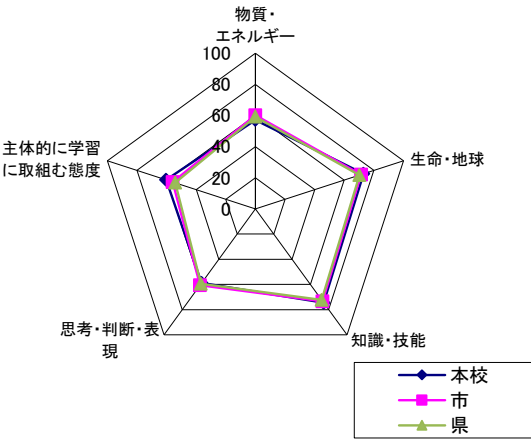
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○大きい数、小数、分数の問題の小数の仕組みを理解しているかの問題では、正答率が98.3%と県の平均正答率より3.3ポイント上回っている。 ○たし算・ひき算の繰り上がり3回の問題の正答率は、83.3%と県の平均正答率より4.4ポイント上回っている。また、わり算の文章問題の立式においては、正答率が83.3%と県の平均正答率より4.6ポイント上回っている。 ●2けたのかけ算の問題では、正答率が60%と課題が見られる。 ●大きい数の十進位取りの問題では、正答率が76.7%と県の平均正答率より8.7ポイント下回っている。	・繰り上がりのあるかけ算などの計算のきまりについて、継続して指導するとともに、さらに習熟を図っていく。 ・位取り板等の教材を活用したり、実数に線を引かせて位ごとに区切ったりするなどして、位取りを意識した授業を展開していく。
図形	○正三角形の作図の問題では、正答率が90%と県の平均正答率より2.2ポイント上回っている。 ●球の半径から球が1つ入った箱の辺の長さを求める問題では、正答率が70%と県の平均正答率より3.2ポイント下回っている。 ●円の半径について理解する問題では、正答率が73.3%で県の平均正答率より2.9ポイント下回っている。	・球の性質が理解できるよう、模型などの具体物を使って確かめるなど、体験的な活動を取り入れた授業を展開していく。 ・円の中心、直径、半径の概念について丁寧に指導することで、半径と直径の関係性を正しく理解できるよう指導する。
測定	○ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める問題では、正答率が73.3%と県の平均正答率より1.6ポイント上回っている。 ●単位の前にk(キロ)がつくと元の単位の何倍になるかの問題では、正答率が41.7%と課題が見られる。 ●時間の単位を換算する問題では正答率が65%で県の平均正答率より下回るなど課題が見られる。	・長さや重さの単位について、日常生活と結び付けながら具体的な体験を通して正しく理解できるようにするとともに、k(キロ)がつくことで重さや長さの単位が千倍になることも捉えられるようにする。 ・六十進法について正しく理解できるよう、反復練習することで、単位の換算に関しても確実な習得を図る。
データの活用	●棒グラフから正しい情報を読み取る問題では、正答率が50%と課題が見られる。 ●複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み取る問題では、正答率が50%で県の平均正答率より6.5ポイント下回っている。	・グラフから読み取れる傾向や特徴に注目するよう言葉かけをするなど、情報を的確に把握する力を身に付けられるようにする。 ・縦軸の値に注目させ、1メモリがいくつかを正しく理解できるよう支援することで、数量やその違いを正確に捉えられるようにする。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.1	60.2	59.2
	生命・地球	73.0	71.3	70.3
観点	知識・技能	74.5	73.4	72.3
	思考・判断・表現	58.8	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	60.3	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「じしゃくのせいしつ」の磁石が物を引き付ける力は磁石と物の距離によって変わること推測する問題では、平均正答率が56.7%と、県の平均正答率より4.5ポイント上回っている。また、「物の重さ」の実験の予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する問題では、平均正答率が55.0%と、県の平均正答率より4.9ポイント上回っている。 ●「じしゃくのせいしつ」の磁石の極を確かめる方法を構想する問題においては平均正答率が45.0%、「音のせいしつ」の糸電話の糸をつまむと音が伝わらない理由を説明する問題では平均正答率が33.3%と、県の平均正答率より下回っており、課題がある。	・基礎的な知識・技能は身に付いているが、それらの力を活用して問題を解くまでに至っていない。実験や観察の手順をしっかりと押さえ、結果からの考察を丁寧に指導していく。 ・磁石が物を引き付ける力があることは理解しているが、どんな物が付くかについての理解が不十分である。実験の結果を表に分類、整理するなど、磁石の性質について考えたり、説明したりする活動の充実を図る。 ・音の大きさと震え方が変わることは理解しているが、その後の事象を説明する問題に課題が見られた。スピーカーなどから音が出るとき、それらが震えていることを取り上げるなど、日常生活と関連付けた学習を取り入れていく。
生命・地球	○「身近なしぜんのかんさつ」の虫めがねの適切な使い方を問う問題では、平均正答率が65.0%と、県の平均正答率より14.1ポイント上回っている。また、「こん虫の育ち方」のモンシロチョウがキャベツの葉に卵を産む理由を説明する問題では、平均正答率が76.7%と、県の平均正答率より17.5ポイント上回っている。 ●「こん虫のからだのつくり」のダンゴムシの体の特徴から昆虫かどうかを判断して理由を説明する問題では、平均正答率が56.8%と、県の平均正答率より下回っており、課題がある。	・方位磁針を用いて方位を調べ、東、西、南、北で空間を捉えられるように指導する。また、方位については、日常生活や社会科と関連を図り、日常生活で使えるようにしていく。 ・複数の種類の昆虫の体のつくりを比較しながら調べ、相違点や共通点を基に昆虫の体つくりについて問題を見だし、表現する活動に取り組ませることで、体つくりの特徴を捉えられるように指導する。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家でテストの間違った問題について勉強している。」に肯定的回答をした児童は81.6%と高く、県の平均を17.2ポイント、市の平均を17.5ポイント上回った。テストの間違えをそのままにせず、正しく答えられるようにもう一度解き直すことに意欲的に取り組んでいる。

○「将来の夢や目標をもっている。」に肯定的回答をした児童は90%と高く、県の平均を3.2ポイント、市の平均も1.3ポイント上回った。キャリア教育の一環として、将来の夢をしっかりと見据えた上で努力しようとする意欲が見られる。

○「算数が将来のために大切だと思いますか。」に肯定的回答をした児童は、96.7%と非常に高い。また、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考えている。」に肯定的回答をした児童は83.4%で、県の平均を11.7ポイント、市の平均を11.1ポイント上回っている。さらに、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。」も肯定的回答をした児童は85%で、県の平均を2.8ポイント、市の平均を1.9ポイント上回っていることから分かるように算数の必要性を感じたうえで学習に取り組んでいる。習熟度別学習の成果も現れているものと考えている。

●「家で学校の宿題をしている。」に肯定的回答をした児童は98.3%と非常に高く、県や市の平均を約5ポイント上回っている。しかし、「家で復習をしている。」の肯定的回答をした児童は53.4%で、県の平均を12.7ポイント、市の平均を7.5ポイント下回っている。予習に関しても同様の傾向が見られる。宿題やテスト直しのように与えられた課題に関しては意欲的に取り組むが、自分にとって必要な学習も考えて取り組めるように、自主学習に取り組んだ児童のノートに意欲付のコメントを書いたり、児童にとって必要な学習課題の示唆をしたりする。

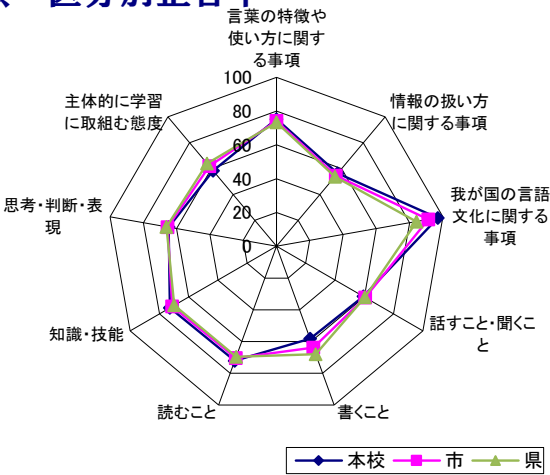
●「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」に肯定的回答をした児童は、63.3%と低い。県の平均を10.5ポイント、市の平均を11.1ポイント下回っている。コロナの影響で話し合う活動が十分に確保できないことに加え、「友達の前で自分の考えを発表することは得意である。」が県の平均より10ポイント以上低いことも影響していると考えられる。感染症対策を十分に取しながらも、少人数による話し合い活動を取り入れ、自分の考えを自信をもって発表できるようにしたい。

●「1か月に何冊くらい本を読みますか。」という質問に対して、最も多かった回答が3、4冊だったのに対して、県や市の最も多い回答が11冊以上であった。司書によるブックトークを行ったり、調べ学習で図書室を活用したりするなどして本と触れ合う機会を増やすように働きかけていく。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.3	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	56.3	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	96.9	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	59.4	60.6	60.4
	書くこと	58.2	63.8	68.0
	読むこと	72.1	70.4	69.6
観点	知識・技能	72.8	71.3	69.9
	思考・判断・表現	64.8	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	58.4	61.9	64.0



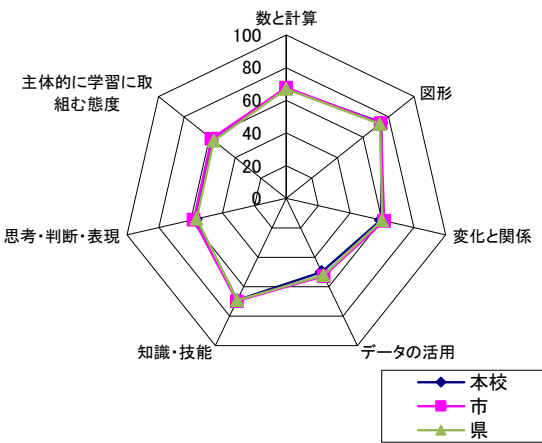
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率が75.3%と、県の平均正答率より4.1ポイント上回っている。特に、漢字の読み書きについては、県の平均正答率を上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・定期的に漢字の確認テストを行うことで漢字の定着を図る。また、AIDリルを活用することで児童の意欲を喚起していく。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率が56.3%と、県の平均正答率より2.5ポイント上回っている。特に、情報と情報の関係を理解し段落相互の関係を文章を読むことは出来てい捉える問題では、県の平均正答率を上回っている。	・情報センターとしての図書館やICTの活用をする。 ・新聞やインターネットからの情報に多く触れ、情報について読み取り、自分の考えを整理する場を多く設ける。
我が国の言語文化にに関する事項	○平均正答率が96.9%と、県の平均正答率より12.7ポイント上回った。語彙量もあり、ことわざの知識をよく理解している。 ●文法の連体修飾語や連用修飾語についての理解に課題がある。	・短文づくりや、文章の読解において文の構成を意識させる。 ・修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾の関係に気を付けて、文の構成を理解できるように指導していく。
話すこと・聞くこと	○話し手が伝えたいことの中心を捉えることについては、県の平均正答率より6.1ポイント上回っている。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることについて課題がある。	・互いの意見の共通点や相違点に着目させ、一つの結論を出したり、話し合われたことに対する自分考えをまとめたりする学習を取り入れる。
書くこと	●平均正答率が58.2%と、県の平均正答率より9.8ポイント下回った。特に、指定された条件に従って書くことに課題がある。	・構成を工夫して文章を書かせたり、書いた文章を互いに読み合ったりすることで、読み手に伝わる文章を書けるように指導する。
読むこと	○平均正答率が72.1%と、県の平均正答率より2.5ポイント上回った。特に、登場人物の気持ちや変化については、場面の移り変わり結び付けて読み取る問題は、県の平均正答率より8.8ポイント上回った。 ●説明文の読み取りの中で、情報と情報の関係について理解し、段落相互の関係を捉えることについて課題がある。	・書き手の考えがどのような理由によって説明されているのか、どのような事例によって具体化されているのかなどを、叙述を基に正確に捉えていく学習活動を丁寧に行っていく。 ・物語教材では、それぞれの読み方を共有する学び合いの場を設け、多面的な読み取りが深まるようにさせる。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.2	67.8	67.0
	図形	74.4	73.9	73.1
	変化と関係	59.4	61.4	60.2
	データの活用	50.0	52.7	52.1
観点	知識・技能	69.1	69.7	69.2
	思考・判断・表現	56.7	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	58.3	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

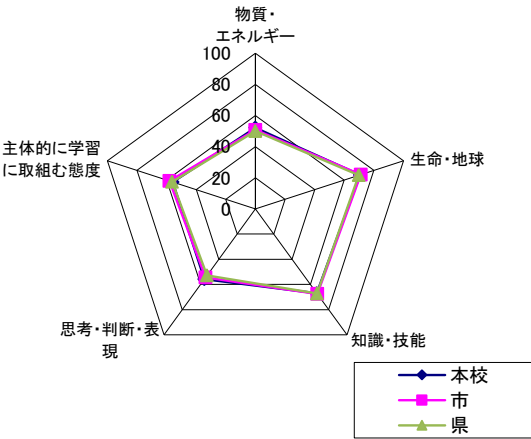
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○少数第一位から少数第二位をひく計算では、正答率が76.6%と県の平均正答率より9.7ポイント上回っている。 ○少数第二位÷整数の計算問題では、正答率が81.3%と県の平均正答率より15ポイント上回っている。 ●帯分数同士のたし算では、正答率が56.3%と県の平均正答率より6.8ポイント下回っている。 ●基準値をもとめる除法の文章問題を表した図を選ぶ問題では、正答率が59.4%と県の平均正答率より下回るなど課題が見られる。	・帯分数と仮分数の表し方について確実な習得ができるようにする。 ・基にする量と比べられる量の関係性を正しく理解し、その値を正しく計算できるよう図を使うなど、視覚的に捉えられるよう指導する。
図形	○分度器の中に示された角の大きさを読み取る問題では、正答率が85.9%と県の平均正答率より5.1ポイント上回っている。 ○ひし形の作図をする問題では、正答率が87.5%と県の平均正答率より5.2ポイント上回っている。 ●180度より大きい角を求める問題では、正答率が62.5%と県の平均正答率より4.1ポイント下回っている。 ●立方体にある平行な辺を見つける問題では、65.6%と県の平均正答率より4.1ポイント下回っている。	・180度以上の角度を正確に導き出すことができるよう繰り返し練習問題に取り組めるよう努める。 ・立体模型など具体物を使って体験的な学習を心がけ、それぞれの図形の特徴を理解できるようにする。
変化と関係	○数量の関係を割合を使って説明する問題では、正答率が60.9%と県の平均正答率より2ポイント上回っている。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、正答率が39.1%と県の平均正答率より2.2ポイント上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では、正答率が81.3%と県の平均正答率を下回るなど課題が見られる。	・長方形の縦と横の長さを具体的に調べられる教材を活用し、それぞれの関係が理解できるよう丁寧な指導を心がける。
データの活用	○2つの条件を表した表を読み取る問題では、正答率が51.6%と県の平均正答率より4ポイント上回っている。 ●折れ線グラフを読み取る問題では、正答率が68.8%と県の平均正答率より5.3ポイント下回っている。 ●2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理	・例題をよく確認し、方向や数値の読み取りが的確に行えるように、グラフの読み取り方を確認する。また、社会や理科など他教科の学習機会も活かしながら、グラフを読み取る力を高めていく。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	52.1	50.8	50.0
	生命・地球	70.6	71.1	69.8
観点	知識・技能	67.0	67.6	67.2
	思考・判断・表現	55.9	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	55.9	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率が52.1%と、市の平均正答率50.8%より1.3ポイント高く、県の平均正答率50.0%より2.1ポイント高い。○「物の体積と温度」の実験の結果をもとに手作りの噴水の原理を推測する問題では、平均正答率が59.4%と、県の正答率より9.5ポイント高い。また、「物のあたたまり方」の金属の温まり方を理解し水の温まり方とともに考察する問題では、平均正答率60.9%と、県の正答率よりも6.9ポイント高い。 ●「水のすがた」の水の姿についての理解を問う問題では、平均正答率64.1%と、県の正答率より5.2ポイント低い。	・実験や観察などを通し体験的な学習内容を多く取り入れるなど学習内容を理解できるようにする。 ・水は温度によって、水蒸気や氷に変わることを既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を表現するとともに、実験結果から、水は温度によって、液体、気体、個体に状態が変化することを捉えられるようにする。
生命・地球	○「一年間の植物の成長」のグラフからヘチマの茎の伸びと気温の変化の関係を説明する問題では、平均正答率84.4%と、県の正答率より8.4ポイント高い。また、「自然の中の水」の実験の結果から水たまりの水が無くなる理由を問う設問では、平均正答率89.1%と、県の正答率より7.8ポイント高い。 ●「月と星」の星座が時間とともに位置は変わるが並び方は変わらないことを理解していることを問う問題では、平均正答率60.9%と、県の正答率より8ポイント低く課題が見られる。	・視聴覚教材を活用したり、家庭と連携して観察の時間を確保したりするなど、月や星を多く観察する機会を多く持つようにすることで月や星の動きが具体的に理解できるようにする。 ・月や星の位置の変化と時間の経過との関係について理解できるよう、既習の内容や生活経験を基に予想や仮説を発想する活動を取り入れる。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている。」の肯定割合は100%で、家庭学習への取組状況はよい。与えられた課題に対し、期限を守って取り組もうとする意識が高い。

●一方で「家で学校の授業の予習をしている。」と答えた児童は32.8%にとどまり、市県平均と比較して20ポイント以上下回っており、自主的に計画を立てて家庭学習に取り組むことに課題が見られた。また「家で勉強するときにはだいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」の肯定割合も51.6%で市県平均より14ポイント以上下回っており、家庭での学習において望ましい習慣が身に付いているとは言えない。「家庭学習の進め方」を児童の取組状況に応じて見直しながら示し、学習効果につながる時間の使い方を習慣化していきたい。

○「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、一日あたりどれくらいの時間読書を読みますか。」に対し、「1時間以上2時間より少ない。」が市の平均より6.5ポイント上回っており、適度な読書習慣が身についていると言える。また「1か月に何冊くらい本を読みますか。」に対して、「5～10冊」の回答も市や県と比較して10ポイント以上上回っており、多くの本に親しもうとしていることが分かる。

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」の肯定割合が89.1%と市県平均より4ポイント以上上回り、自分の課題を自力で克服しようとする意欲が高いことが分かる。じっくりと考えたり、粘り強く取り組んだりしようとする意識を維持できるように励ましながら指導にあたっていきたい。

○「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の肯定割合は81.3%と市平均より2ポイント上回り、授業で何を学んだのかを確認することができていると言える。引き続き、授業において学習のめあてを明確に児童に示すとともに、授業の最後に児童が本時の授業内容を振り返る場と時間を確保し、「この時間に何をがんばればよいのか。」「この時間で自分が成長したこと。」を自覚できるようにしたい。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」の肯定割合は95.3%と市平均より0.6ポイント上回っており、他者の考えを聞こうとする意欲が高い。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」が71.9%と高く、自ら考えて表現することに苦手意識をもっていることが分かる。書くことへの抵抗をなくすための文の作り方の提示や、メモ、カードの活用を図るなど、それぞれが自信をもって思いを表出できるようにしていきたい。

○「学校のきまりを守っている。」の肯定割合は96.9%と市県平均よりも3ポイント程度上回り、集団における規範意識をもって生活していることが分かる。

○「毎日朝食を食べている。」の肯定割合は98.4%と、市や県の平均より3ポイント程度高く、朝食をとる習慣は身に付いている。

●「毎日同じくらいの時刻に寝ている。」に対する肯定割合が70.3%と市や県の平均よりポイント程度低く、生活リズムの乱れが見受けられる。また、「ふだん(月～金曜日)、一日あたりどれくらいの時間テレビゲームをしますか。」の設問に対し「3時間以上」と答えている児童が39.1%と市平均と比較して20ポイント程度上回り、ゲームに依存した生活を送っている傾向が見られる。家庭への啓発をするとともに、学級活動等で生活習慣の見直しについて児童が考える機会を設け、改善への意識を高めていきたい。

○「人と話すことは楽しい。」に対する肯定割合は89.1%と高く、友達や家族と関わることに積極的で、相手を肯定的に受け止めることのできる良好な関係づくりができていると言える。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」の肯定割合が81.3%と高く、社会の情報を得ることに積極的であることが分かる。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からない時は辞書を使って調べている。」の肯定割合は64.0%と市や県の平均を1ポイント上回り、辞書を活用した学習の習慣が身に付きつつある。

宇都宮市立清原南小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
図書資料を活用した学習活動の充実を図る。	学校図書館を「学習・情報センター」として活用したり、国語辞典や漢字辞典を常時活用できる環境整備をしたりするなど、自ら課題解決を行える授業展開を行ってきた。	目的を意識して材料を集めたり、比較分類する力が身に付きつつある。常時、国語辞典や漢字辞典を使用することで、言葉の特徴や使い方について理解を深めることができるようになってきている。また、定期的に漢字テストを行うことで、漢字の読み書きに関する基礎基本が身に付いてきている。
児童同士の協働的な学び合いの学習を通した、思考力の向上と教師のコーディネートを意識した授業の展開	学び合いの場を設定し、課題を明確にした話し合いや、自分の考えを整理したり、根拠を明確にしたりして意見の交換ができるよう学校全体として取り組んだ。	学び合いを意識して学習活動を行った。教師による授業コーディネートの元、課題に対して児童同士と一緒に考え、学習を進めることで、国語や理科において意欲の高まりや知識・技能の定着を図ることができた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年生共に、算数科におけるデータの活用領域の平均が低い。また、4年生は測定領域で、特に単位の換算に課題が見られた。	算数科における単元や子どもの実態に合わせた少人数指導や習熟別学習の充実	個に応じた対応と集団の特性を効果的に生かす学習形態を工夫し、計画的、継続的に指導にあたる。個に応じた学習教材を活用し反復練習を行うことで、問題の解き方の定着を図る。
自分の意見や考えを書くことはできるが、文章を条件に合わせて構成し表現することに課題が見られた。	言語活動と、考えを書いてまとめる活動の重視	授業を通して、自分の思考の過程が分かるノート記述の指導と、整理・まとめがしやすいワークシートの工夫をする。また、全校で発達段階に応じた日記指導に取り組む、思考の整理や表出ができるようにする。
自主的に計画を立てて家庭学習に取り組むことに課題が見られた。	「家庭学習のすすめ」(地域・学校園共通)の提示と、目的が明確な課題設定、個に応じた助言等の工夫	「家庭学習のきまり」や進め方の見直しを随時行い、学習効果がたかまるような時間の使い方を習慣化していく。また、学年の発達段階に応じて、復習、予習の勧めや解き直し、自主的な課題の見つけ方などの「家庭学習の進め方」を示すなどして家庭への啓発を行う。